

まごころだより

2020年 5月号

今月号もコロナウイルス感染症に関わる内容の“まごころだより”になってしまいました。富山県では3月末に最初の感染者が確認されたが、わずか一ヶ月の間に200名に及ぶほどの感染が拡大してしまいました。半分がクラスターでの感染拡大ですが、広がりを見せた場所が衝撃的でした。医療機関と福祉施設という直接いのちに関わる場所の拡大ですから穏やかではありません。都会の様に、人の移動が特別多いと言うわけではないような気がする富山県ですが、人との関わり合いを大切にする土地柄なのではないでしょうか。



報道はどの局も、毎日コロナウイルスに関する内容のニュースを流していますが、見通しが明るくなるような内容は無く、それどころか生活に困窮する人の命にまで関わる内容を報道しています。生活を営むための全ての業種に影響させているコロナは、私たちにどこまで詰め寄ってくるのでしょうか。

過去のどの災害も人類に準備不足を問いかけています。特に自然災害は突如として現れ、人間の社会生活に混乱をおよぼして去って行きますが、自然が相手では手の打ちようがないのでしょうか。自然災害は防ぐことはできないのでしょうか。最低限の備えはしておくべきではないのでしょうか。今度のコロナウイルスは、得体の知れない全く新しいウイルスだけに、治療できるワクチンの開発には長い期間が必要になるでしょう。その間にどのくらい多くの犠牲が払われるのでしょうか。このコロナウイルスには他人事ではなく、明日は我が身であることをご承知し、うつらないようにするのは勿論のこと、それ以上に“うつさない”と言う気持ちを持つことが今自分ができることのひとつだと思います。

コロナウイルス感染症に関して沢山の情報が流れていますが、利用者の方の多くは理解しておられないようです。手指の消毒はいつも行っていることなので抵抗はありませんが、マスクは長時間できないようで、促しても直ぐに外されてしまいます。説明しても理解は困難なので強要はしません。だからこそ私たちが利用者の環境に心を配らなくてははいけません。職員たちは自分のできる限りの衛生管理を行ってくれています。随時部屋の換気を行い、席の間隔とり、必要としている声かけの方法などを、各々が3密にならないように工夫し配慮しながら頑張ってくれています。緊急事態宣言による自粛要請が長引くことで、精神的に疲弊してしまいそうですが、今だからこそ自らが試されていると捉え、自制することが必要だと思います。

